

団塊のカタログ

第8号

平成9年 月

(吉田内閣)

第2章



この年の出来事

4月→第1回ミス日本に山本富士子

6月→朝鮮戦争勃発

7月→金閣寺放火、全焼

女性差別だ、性の商品化だの議論の一方で全国各地で企業や自治体がミス・コンテストを華々しく実施、その優勝・入賞が女優・歌手・タレントへの登竜門になっている。

「スター誕生」のようなタレント・スカウト番組がテレビから姿を消したせいもあってか、ミス・コンでとりあえず顔やスタイルでマス・コミに注目させてから、あらためてテレビから売り込むパターンが今ではすっかり定着した。

テレビの視聴者(国民)も本格的な歌や演技を別に望まないから、これはこれで需要と供給のバランスはしっかり取れている。

その先がけともいうのが、この年の第1回ミス日本に選ばれた**山本富士子**である。

3年後の昭和28年7月に当時としては珍しい八頭身美人の伊東絹子がミス・ユニバース世界大会で3位に選ばれたのをキッカケにミス・コンがそこら中で開催されるようになったが、元祖はワタシよと言わんばかりにそ

れに先立つ同年4月「花の講堂館」(大映)でさっそうと映画デビューを果たした。

いきなり主演、しかも相手役が超大モノの**長谷川一夫**であったことだけでもその期待度がわかるというものだ。

その後29年「^{こんじきやし}金色夜叉」(共演^{ねがみじゅん}根上淳・^{ふなこしえいじ}船越英二)、31年「^{うへはらけん}夜の河」(共演上原謙「^{せんぎへいじ}銭形平次捕物控・^{まだらへ}まだら蛇」(長谷川一夫と、立て続けに大物俳優を相手にする。

これらはいずれも大映作品であるが、33年には「^{ひがなばな}彼岸花」(監督^{おずやすじろう}小津安二郎、共演^さ佐分利信・^{ぶりしん}田中絹代・^{ありま いぬこ}有馬稲子)で松竹映画にも出演、以降36年に「黒い十人の女」(監督市川崑。岸恵子)、37年に「私は二才」(監督市川崑、船越英二)と、いずれも話題作に出演する。

38年、他社出演を禁止したかの悪名高い「5社協定」にはばまれフリーになり、その後は主に舞台で活躍、テレビ・ドラマにはほとんど出ていないので、今の十代・二十代にはなじみが薄いだろう。

かく言うワシも名作「彼岸花」を1度見たきりだが、確かに日本的な美人である。

「平和とは、戦争と戦争の間のホンの短い期間に人類が見る錯覚」だそうだ。

正に明言で、第二次世界大戦が終わってホッとする間もなく、5年後に今度は**朝鮮**

半島で火の手が上がった。

この年の6月、**北朝鮮**（朝鮮民主主義人民共和国）は南の**韓国**に宣戦布告、国境を越えて進軍して来た。

国連安全保障理事会はソ連欠席のまま、北朝鮮の即時撤退を要請するアメリカ案を採択したが馬耳東風、当初こそ北朝鮮軍の快進撃が続いたものの、やがて国連軍がアメリカの指揮下に入るようになり、質量ともに劣勢の北朝鮮は撤退を余儀なくされた。

いったんは韓国で勝利記念パレードも行われ、国連軍の最高司令官マッカーサー元帥もこれに参加、あわせて北朝鮮軍に対して降伏勧告されたこともあって、内戦もこれまでかと思われたが、降伏勧告の度に北朝鮮はこれを拒否、やがて中国が参戦、北朝鮮側は勢いを盛り返す。

アメリカのトルーマン大統領は原爆使用も一時考慮した程だったが、イギリスのアトリー首相に反対され、中国参戦を見通せなかったマッカーサーをクビにするにとどめた。

開戦して1年程たった翌26年の7月、いったんは国連軍と共産軍の間で休戦交渉が受諾されたが、会談の成果もむなしく、再び戦闘は激化する。

死傷者5〇〇万人を超えたこの内線、昭和28年に板門店はんもんてんで休戦協定が調印され、翌年には捕虜交換も実施、一応の終戦を迎えた。

南北ベトナム・東西ドイツも統一され、分断の悲劇は朝鮮半島だけとなった。

あれからそろそろ50年、北朝鮮の惨状と韓国の繁栄はご承知の通りで、平和的統一の見通しはほとんどない。

☆

「人類の犯す最大の愚行は戦争」であるともいうが、戦うなら勝たなくてははいけない。

敵に勝つには敵より優れた兵器を手に入れる必要がある。

というわけで、有史以来兵器を開発する為に科学が発達し、それを作る兵器産業や他の工業生産も経済活動も活発になる。

朝鮮半島へ向うアメリカ軍はいったん日本に立ち寄り、物資（生活用品・酒・女性を含む）を調達するので日本は大いに潤った。

朝鮮特需である。

ベトナムで戦争が起こればアメリカ本土との中継点としてまた特需・・・今日のわが国の繁栄は、ソ連とアメリカの二大国がにらみ合い、朝鮮とベトナムで戦争があったからに他ならない。

血を流さず繁栄だけを手に入れたが、湾岸戦争ではそうもいかず、すったもんだで結局100億ドル出費したのは記憶に新しい。

アメリカが世界のもめごとに手と口を出し日本が憲法を守り続けるのなら、今後もこの傾向は続くだろう。

結果として北朝鮮の独立を許し、ベトナム戦争で惨敗したアメリカであったが、その後のソ連の崩壊などにより結局は一人勝ち。

キューバもへたに独立せずにアメリカの観光地の甘んじておけば良かったのだ。

☆

中学校の修学旅行で**金閣寺**にも行ったことがあるが、あまりにもイメージと違うのでガッカリした覚えがある。

建物のまわりに池があるのだが、これがまず小汚ない上に、そこそこにゴミがぶかぶか浮いている。

金閣寺そのものが金ピカに光っていなかったのは許せたのだが、それさえ立て直されたものだと言及んでは、腹さえ立った。

そのときのガイドさんの説明に、この放火事件のことがあったような気がするが、金閣寺に限らず、日本のお寺やお城のほとんどが立て直されたものであるとのこと。

だって基本的には木造だもんね。

音 楽

- ★モナ・リザ (ナット・キング・コール)
- ★夜 来 香 (李 香 蘭)
り こう らん
- ★買 物 ブ ギ (笠置シヅ子)
かさぎ
- ★アザミの歌 (伊 藤 久 男)

モナ・リザ (Mona Lisa)は聞いたことのない人はまずいないであろうスタンダード名曲中の名曲。

戦前から映画に歌にと大活躍したのが李香蘭^{り こう らん}で、その代表作が夜来香^{イエライシャン}。

大正9年(渋谷新太郎^{しやうたろう}さんと同じ年)中国東北部生れ、名前がいかに中国人風だが、本名山口淑子^{おおかよしこ}というれっきとした日本国籍の日本人で、今の参議院議員大鷹淑子^{お鷹}さんのことである。

15年に「支那の夜」(東宝。共演長谷川一夫^{しゅう})、16年には「蘇州の夜」(松竹。共演佐野周二=関口宏のお父さん)など中国を舞台にした映画に数多く出演した。

時世は日本が中国に進出していた真っ最中だったこともあって、その現実と正当性を国民に見せつける政治的効果も含めて、結構ウケたそうである。

当時の写真を見ると確かに超のつく美人で人気があったのもうなずけるし、テレビドラマで彼女の役を演じた沢口靖子にどことなく似ている。

16年の日劇公演では警官50人が出動する大混乱だったというから、その人気の程がわかるというものだ。

ところでこの25年には「醜聞」^{スキャンダル}(共演三船敏郎)で黒沢明作品にも出演、また31年には渡米、日本人女優として初めてニューヨークはブロードウェイの舞台にも立ち、芸域の広さを印象づけた。

同年、その5年前に結婚した彫刻家イサム

・野口氏と協議離婚し、翌32年に外交官の大鷹弘氏と再婚、49年には参議院議員選挙に自民党公認で全国区で当選、その後は華麗なる履歴書を武器(?)に外交面として活躍し、単なるタレント議員でないところを自ら証明、現在に至っている。

残念なことにワシらの世代にはあまりなじみがなく、かく言うワシ自身も彼女の映画は1本も見えてないし、この「夜来香」もどんな歌だかさっぱりわからない。

いずれにしても、ここに出ている日本の歌手は我々の親の世代の思い出である。

映 画

- ★自転車泥棒 (監督V・デシーカ)
- ★白雪姫 (ディズニー初の長編カラー)
- ★羅生門^{スキャンダル}、醜聞 (監督黒沢 明)
- ★いれずみ判官 (片岡千恵蔵)

世界で通用する日本人は黒沢 明ただ一人である。

他はいずれも「東洋のちっぽけな島国の山ザルにしては良くやってるワイ」程度の評価がせいぜいだが、黒沢明だけは違う。

昭和18年第1回監督作品「姿三四郎」を始めとして、時代劇にも現代劇にも優れた作品を残しており、一つとして駄作はない。

この年の羅生門^{スキャンダル}がベネチア映画祭でグラン・プリに、ベルリン国際映画祭で生きる^{スキャンダル}が銀熊賞にそれぞれ輝いている。

作品もそうだが、クロサワの偉大なところは海外に与えた影響の大きさだ。

日本映画の最高峰七人の侍(29年)は36年にユル・プリンナー、スティーブ・マックィーン、チャールス・ブロンソンらで荒野の七人としてリメイクされており、原作が優れているせいもあって、この作品も高い評価を得ている。

用心棒は**荒野の用心棒**としてリメイクされ、衰退したハリウッド西部劇に代って大流行したマカロニ・ウエスタン（イタリア製西部劇）の先駆けとなった。この作品に主演したクリント・イーストウッドはその後「ダーティ・ハリー」シリーズで大活躍、1986年（昭和61年）にはカリフォルニア州カーメル市長になっている。

さらに「隠し砦の三悪人」は「スター・ウォーズ」に、「羅生門」は「暴行」「戦場の勇氣」にリメイクされており、いずれも傑作。

「E.T.」「ジョーズ」のスティーブ・スピルバーグ、「スター・ウォーズ」のジョージ・ルーカス、「ゴッド・ファーザー」のフランシス・コッポラなど、黒沢明を師と仰ぐ映画監督は少なくない。

————— ☆ —————

そんな偉大な映画監督ではあるが、妥協を許さない天才芸術家にありがちな気難しさからか、製作者とケンカすることもたびたびで日米合作映画の「トラ・トラ・トラ」の共同監督を途中で降りたり、**影武者**では逆に主演の**勝新太郎**をクビにしてしまう。

この作品は、**勝新太郎**の主演だけが決まっていた、その他の配役は自薦他薦を含む公募で決めたのだが、その肝心の主役さえ替えてしまうという、なんとも恐ろしい人である。

結局、仲代達矢がピンチ・ヒッターに立って作品そのものは完成したが、残念ながらのミス・キャスト、出来も今イチであった。

————— ☆ —————

舞台は戦国時代、甲斐（今の山梨県）の**武田信玄**は急死するが、その死を敵にも味方にも気付かれないように、と遺言した。

そこで、信玄そっくりな男を影武者に仕立てたのだが、初めの内こそ堂々と振る舞い、身内さえだまし通せたものの、ひょんなことからバレてしまう。

それまで「お館様」と周囲の尊敬を集めていた男が、バレた途端に冷たい視線を背中に浴び、粗大ゴミとして放り出される。

もともと虚像だった影武者が実像を演じる喜劇、また虚像に戻ってしまう悲劇、その落差がこの作品の見せ所である。

前半のお館様らしく振る舞うところはさすがに仲代達矢なのだが、重厚さが残ってしまって、後半の「落」の部分が物足りない。

落ち切っていないのだ。

風林火山でおなじみの**武田信玄**、教科書などに載っている挿絵では、おおむね太めに描かれていて、そんな体格から繰り出される尊大さと「兵隊やくざ」や「座頭市」のコミカル性で**勝新太郎**が性格も体格も適役なのだ。

その勝新もテレビ・シリーズの打ち切り、息子・娘の不祥事、監督・主演した**座頭市**では死者をだしたり、パンツの中にコカインを隠していたのが見つかったりとロクなことがなく、失意の内に先日なくなった。

あの時あのまま「影武者」の撮影が続行されていたら、間違いなく国際俳優として高い評価を得ていたことだろう。

今でこそ黒沢明の偉大さがわかるが、残念ながら小学生時代には1本も見えていない。

あえて選ぶベスト3は「七人の侍」「天国と地獄」「羅生門」。

文 学

★武蔵野婦人（大岡昇平）

★新・平家物語（吉川英治）

★細 雪（谷崎潤一郎）

★潜行三千里（辻 政信）

★自由学校（獅子文六）

★チャタレイ夫人の恋人（ロレンス）

☆直木賞 今日出海（天皇の帽子）

小山いと子（執行猶予）

檀 一雄（長恨歌）